

(4) 以下に示す積算単価の施工区分を「施工費のみ」とした場合は、支給品がある場合の計算例【支給品費が控除された積算単価】と同じ計算を行い、積算単価は整数止めとし少数点以下を切り捨てている。

- ・C～1000 基礎・裏込砕石工
- ・E～2010 排水構造物工（鉄筋コンクリート台付管）
- ・E～2020 排水構造物工（ヒューム管（B形管））
- ・I～2010 路盤工
- ・J～3700 排水構造物工（排水管、フィルター材）

※ 積算単価を算出する方法であり、実際に資材等を支給品として扱うものではない。

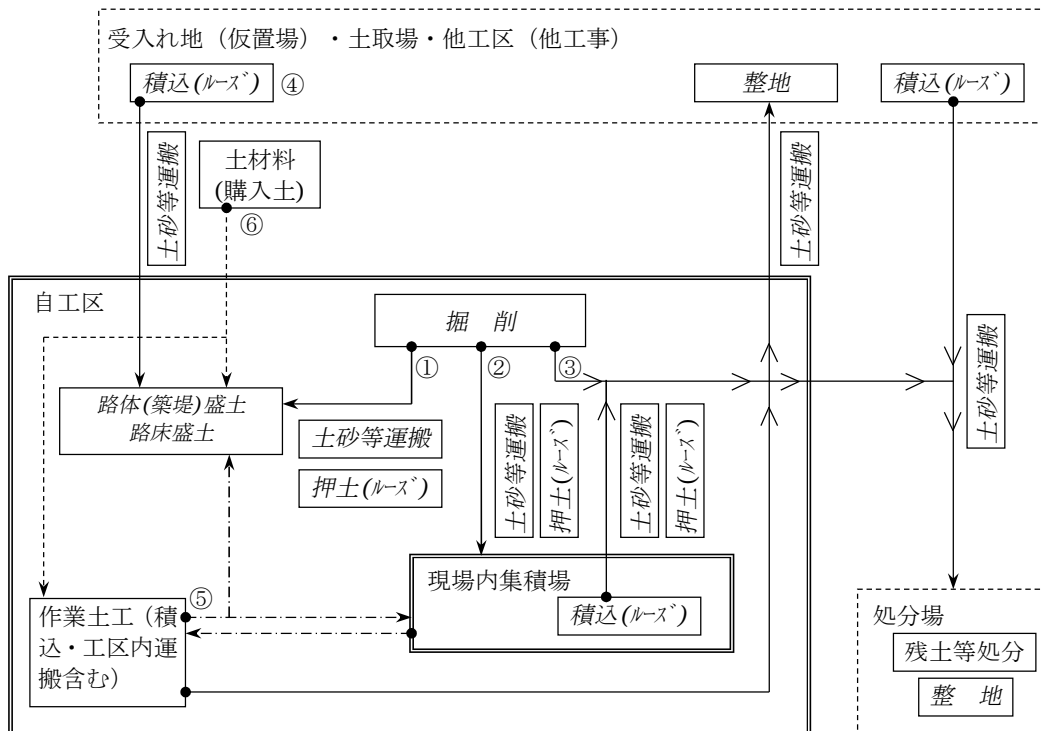
#### 5 施工パッケージ型積算に使用する単価表

積算基準日 単価等分類	令和元	令和2年										
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
標準単価表	標準単価表（平成31.4適用）											
東京機械単価	平成30年度基準（機械経費）											
東京労務単価	平成30年度労務単価											
東京材料単価	建設物価・積算資料（平成30年4月号）											
農政部機械単価	通常の積算に用いる単価と同様（建設機械等損料表北海道補正版平成30年度）											
農政部労務単価	通常の積算に用いる単価と同様（道単価）											
農政部材料単価	通常の積算に用いる単価と同様（道単価）											
積算基準※	令和元年度土地改良事業等工事積算基準											

※ 上表に無い改正・改定を行う場合があるため、最新の内容を確認すること。

2-2 土の流れ概念図及び対応施工パッケージ

(1) 水路土工、道路土工、河川土工等



- 凡例 \* **掘削**等施工パッケージ名称を斜体で示した。  
 \* **土砂等運搬**、**押土(ルーズ)**を実線で示した。(●→)  
 \* 土材料(購入土)は、通常現場着単価であり運搬は、含まれるため破線で示した。(図中⑥)(●- - ->)  
 ただし、土材料(購入土)を土場渡し単価で積算する場合は**土砂等運搬**を計上する。  
 \* 作業土工(床掘り・埋戻し・工区内運搬)における土の流れを一点鎖線で示した。(図中⑤)(●- · - ->)

(注1) **掘削**に含まれる自工区内の運搬について(図中①、②)

(1) 土質が土砂、岩塊・玉石の場合

- ・**掘削**において、押土「有り」を選択した場合、60m以内の工区内運搬を含む。

(2) 土質が軟岩又は硬岩の場合

- ・**掘削**において、以下の条件を選択した場合、30m以内の工区内運搬を含む。

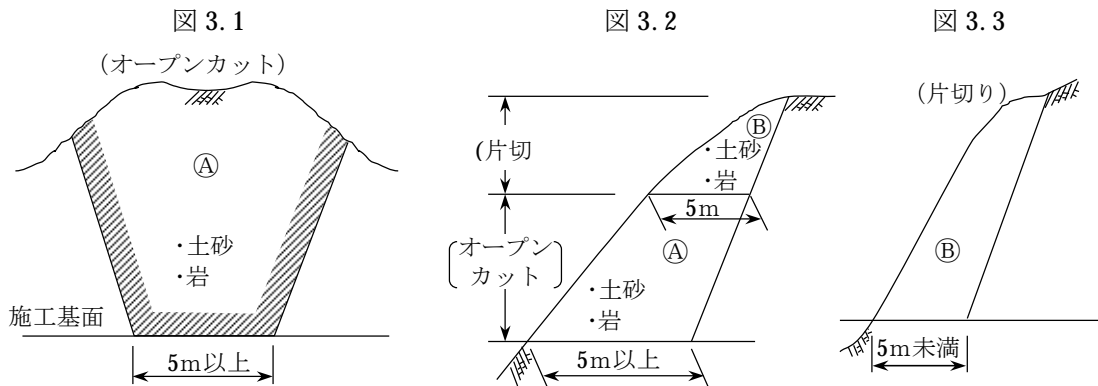
- 「軟岩」で施工数量「5,000 m<sup>3</sup>以上」又は集積押土「有り」を選択した場合
- 「硬岩」で火薬使用「可」又は集積押土「有り」を選択した場合

(注2) 土砂等運搬時の積込作業について(図中①~③)

- ・**掘削**において、条件区分により積込作業を含まない場合がある。
- ・**積込(ルーズ)**を別途計上する必要がある条件区分は、「(参考)ダンプトラックによる土砂等運搬時に**積込(ルーズ)**の計上が必要な掘削の積算条件」参照のこと。

(注3) 地山状態の土を掘削する場合は、「3-1 **掘削**」を適用する。(図中④)

- (注1) 表 3.1 は、土砂、岩塊・玉石の掘削・積込み（掘削と同時に進行する積込み）・運搬（掘削と同時に進行する押土による運搬）、軟岩・硬岩の掘削・積込み・破砕片除去及び集積押土等（積込みは含まないため、別途計上）、その施工に必要なすべての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
- (注2) 土量は、地山土量とする。
- (注3) 施工方法は、掘削箇所の地形により「オープンカット」、「片切り」に区分する。



① オープンカット

図 3.1 に示すような切取面が、水平もしくは緩傾斜をなすように施工ができる場合で、切取幅 5m 以上、かつ延長 20m 以上を標準とする。

② 片切掘削

図 3.2 及び図 3.3 に示すような切取幅 5m 未満の領域 B とする。なお、図 3.2 に示すような箇所にあっても、地形及び工事量などの現場条件等を十分考慮のうえ、前述のオープンカットが可能と判断される場合はオープンカットを適用する。

③ 水中掘削

土留・仮締切工の施工条件において掘削深さが 5m を超える場合、又は掘削深さが 5m 以内でも土留・仮締切工の切梁等のためバックホウが使用できない場合で水中の掘削積込作業。

④ 現場制約有り

機械施工が困難な場合。

土砂は、直接積込できない箇所の人力により片切部分等の切崩し作業。

岩石は、人力により片切掘削及び床掘した岩を距離 3m 程度までの範囲で投棄し、掘削面の法面整形を含む作業。

⑤ 上記以外（小規模）

※1 標準：1 箇所当り施工土量が 100 m<sup>3</sup> 以下、又は 100 m<sup>3</sup> 以上で現場が狭隘な場合。

※2 標準以外：構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な場合、又は 1 箇所当り施工土量が 50 m<sup>3</sup> 以下の場合。

(注 4) 押土の有無

- ① 有り：土砂、岩塊・玉石の場合は、60m までの運搬を含む。ただし、軟岩のオープンカットかつ掘削土量 5,000 m<sup>3</sup> 以上を選択した場合及び硬岩のオープンカットで火薬使用「可」を選択した場合、30m までの押土を含む。

(注 5) 障害の有無

土質：土砂、岩塊・玉石の場合

- ① 無し：構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されず、連続掘削作業ができる場合。
- ② 有り：掘削作業において障害物等により施工条件に制限が有り（例えば作業障害が多い場合）連続掘削作業ができない場合。掘削深さ 5m 以内で掘削箇所が地下水位等で排水をせず水中掘削（溝掘り、基礎掘削）を行う場合。

土質：軟岩の場合

- ① 無し：掘削量が 5,000 m<sup>3</sup> 未満で掘削箇所に大型ブレーカが入り作業できる場合、もしくは掘削量が 5,000 m<sup>3</sup> 以上の場合。
- ② 有り：掘削量が 5,000 m<sup>3</sup> 未満で掘削箇所に大型ブレーカが入れない場合で、掘削箇所の外から作業する場合。

## L～1100 地すべり防止工（集排水ボーリング工）

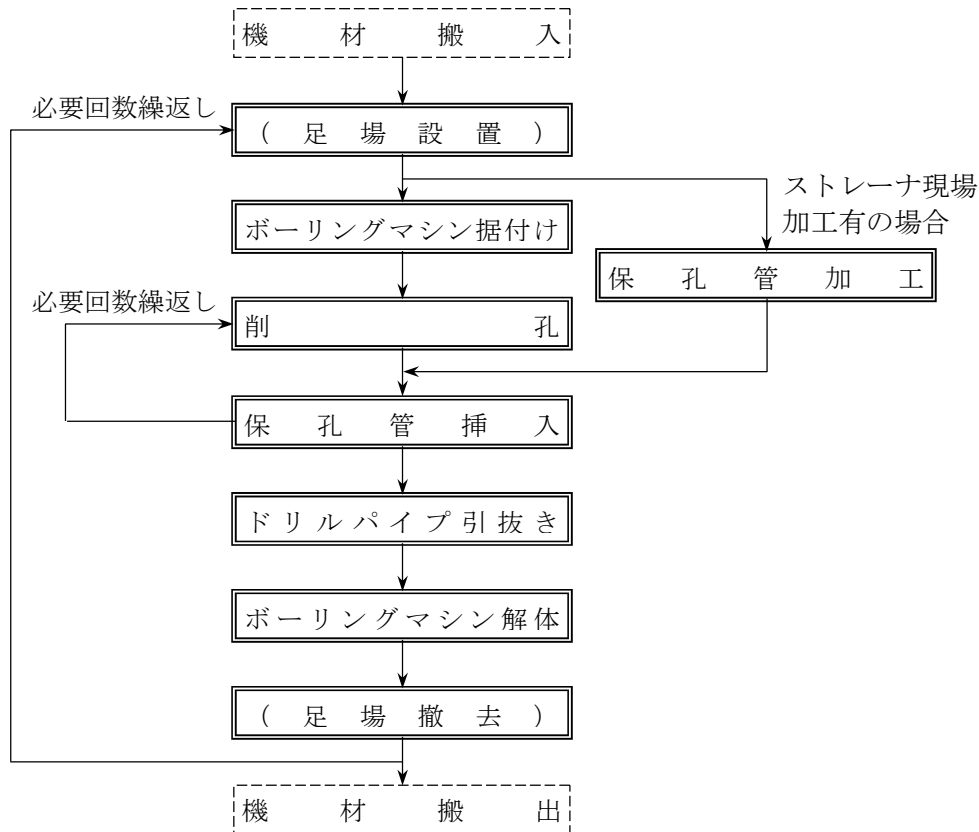
### 1 適用範囲

本資料は、地表及び集水井内において、ロータリパーカッション式ボーリングマシン（二重管方式）にて集排水ボーリング工を施工するものであり、呼び径φ90～135mm、削孔長80m以下、削孔角度は水平±10度以内の作業に適用する。

### 2 施工概要

#### 2-1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



(注1) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

(注2) ( ) 書きについては、必要な場合計上する。

### 3 施工パッケージ

#### 3-1 ボーリング

##### (1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1 ボーリング 積算条件区分一覧 (積算単位：m)

施工場所	土質区分	呼び径	削孔長区分
(表 3.2)	(表 3.3)	φ 90 mm	50m/本以下
			50m/本を超え 80m/本以下
		φ 115 mm	50m/本以下
			50m/本を超え 80m/本以下
		φ 135 mm	50m/本以下
			50m/本を超え 80m/本以下

(注1) 上表は、集排水ボーリング工における削孔、ドリルパイプの引抜き、同一足場上での移動の他、削孔材料